第 26 回 支部総会資料

平成 30 年 5 月 15 日（火）

大阪科学技術センター　8F 小ホール

公益社団法人 日本コンクリート工学会

近　畿　支　部

総　会　次　第

1. 開会挨拶
　近畿支部 支部長

2. 議　事

2.1 議事録記録者、議事録確認者選任

2.2 報告事項

(1) 平成 29 年度 事業報告および収支決算について …… 2

(2) 平成 30 年度 事業計画および収支予算について …… 9

(3) 支部執行部の体制について …… 12

(4) 平成 29 年度表彰について …… 14

(5) 会員数の推移について …… 15

(6) 本部からの報告について …… 16

(7) 年次大会の概要について …… 18

3. 閉会挨拶

【報告事項】

1. 平成 29 年度 事業報告および収支決算について

事　業　報　告

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

平成 29 年度は、新支部長のもとさらなる支部活性化に向けて、各委員会（総務、広報行事、調査研究）が昨年度に引き続き組織だって活動を推進し、会員や市民への情報発信に努めるとともに、さまざまな機会を利用して委員相互の交流を深める取り組みを行った。

総務委員会では委員会を 3 回開催し、支部運営に関わる横断的な事柄を統括するとともに、自主的な運営の定着化を図った。

広報行事委員会では委員会を 2 回開催し、ホームページの更新による情報発信、会員及び市民を対象にした行事を実施した。

調査研究委員会では委員会を 2 回開催し、研究専門委員会の運営、支部奨励賞の選考等を行った。

(1) 執行委員会

1) 第 1 回

開 催 日：平成 29 年 5 月 31 日（水）

場　　所：大阪科学技術センター 6 階会議室

出 席 者：32 名

2) 第 2 回

開 催 日：平成 29 年 7 月 21 日（金）

場　　所：チサンマンション第 7 新大阪 1 階会議室

出 席 者：29 名

3) 第 3 回

開 催 日：平成 29 年 11 月 21 日（火）

場　　所：NLC 新大阪ビル 地下 1 階会議室

出 席 者：26 名

4) 第 4 回

開 催 日：平成 30 年 3 月 5 日（月）

場　　所：NLC 新大阪ビル 地下 1 階会議室

出 席 者：24 名

(2) 支部総会

開 催 日：平成 29 年 5 月 31 日（水）

場　　所：大阪科学技術センター 8 階 小ホール

出席会員：57 名

(3) 支部奨励賞表彰式

開 催 日：平成 29 年 5 月 31 日（水）

場　　所：大阪科学技術センター 8 階 小ホール

表彰人数：3 名

(4) 講演会およびセミナー

1) 特別座談会

開 催 日：平成 29 年 5 月 31 日(水)

場　　所：大阪科学技術センター　8F 小ホール

内　　容：「JCI 会長と語るコンクリートの未来」丸山　久一　氏（JCI 会長）

2) 特別講演会

開 催 日：平成 29 年 5 月 31 日（水）

場　　所：大阪科学技術センター　8F 小ホール

講演題目：「増粘剤一液タイプ高性能 AE 減水剤を用いた中・高流動コンクリートの現状」

講　　師：福島　和将　氏（ポゾリスソリューションズ株式会社）

3) セメント・コンクリート関西発表会 2017（共催：コンクリート研究会）

開 催 日：平成 29 年 10 月 6 日（金）

場　　所：大阪科学技術センター　401 号室

出 席 者：93 名（発表件数 13 件）

(5) 見学会等

1) 親子現場見学会（一般市民対象）

開 催 日：平成 29 年 8 月 3 日（木）

場　　所：住友大阪セメント赤穂工場

参 加 者：13 名（一般：3 名）

2) 見学会（共催：コンクリート研究会）

開 催 日：平成 29 年 11 月 7 日（火）

場　　所：西日本高速道路㈱茨木技術研修センター（I－TR アイトレ）

参 加 者：27 名

3) 工場見学会（会員対象）

開 催 日：平成 29 年 10 月 20 日（金）

場　　所：滋賀県内 PC 工場

参 加 者：10 名

(6) 研究専門委員会等

1）暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会（H26 年度公募）

委員長：麓　隆行（近畿大学理工学部社会環境工学科）（平成 27 年度，平成 28 年度）
　　熊野知司（摂南大学理工学部都市環境工学科）（平成 29 年度）

活動期間：平成 27 年度～平成 29 年度の 3 年間

委員数：26 名

委員会：第 9 回　平成 29 年 4 月 26 日　18 名出席
　　第 10 回　平成 29 年 5 月 22 日　14 名出席
　　第 11 回　平成 29 年 8 月 29 日　17 名出席
　　第 12 回　平成 29 年 12 月 26 日　17 名出席
　　第 13 回　平成 30 年 3 月 29 日　13 名出席

試験計画 WG：
　　第 9 回　平成 29 年 6 月 26 日　12 名出席
　　第 10 回　平成 29 年 7 月 20 日　9 名出席
　　第 11 回　平成 29 年 10 月 23 日　5 名出席
　　第 12 回　平成 30 年 3 月 9 日　15 名出席

ガイドライン作成チーム：
　　第 1 回　平成 29 年 4 月 10 日　11 名出席
　　第 2 回　平成 29 年 12 月 5 日　5 名出席

活動内容：　夏季のコンクリート工事では，外気温が 38℃以上となる場合もあり，施工条件によっては，コンクリート標準示方書や JASS5 で示されたコンクリート温度を 35℃以下とする規定を満足することが難しい場合がある。そのため，日本建築学会近畿支部材料・施工部会と大阪広域生コンクリート協同組合は，建築分野で使用される配合を対象に検討を重ね，平成 25 年に「暑中コンクリート工事における対策マニュアル」をまとめている。そこで，「暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会」を立ち上げ，土木で使用される配合のコンクリートに対する検討を行うこととなった。

平成 27 年度に，近畿大学理工学部社会環境工学科麓隆行准教授を委員長として，26 名の体制で活動を開始した。ただし，暑中期を対象としているため，気候に関する不測の事態を考慮し，平成 29 年度まで活動を継続することとなった。平成 27 年度および平成 28 年度は，試験計画 WG が中心となって実験計画を立案し，室内実験，実機実験，断熱温度上昇試験および実大模擬実験を実施した。

平成 29 年 3 月に，委員長を摂南大学理工学部都市環境工学科熊野知司教授に交代し，異動による交替も含め 26 名の体制で活動を行うことになった。試験計画 WG を中心に，平成 28 年度に実施した各種の実験結果を整理・分析を行い，さらに必要な追加実験項目を洗い出し，平成 29 年 7 月に生コンプラントにおける実機実験を実施した。これまでに得られた実験データをも

とに平成 29 年 10 月 6 日に開催されたセメント・コンクリート関西発表会（コンクリート研究会との共催事業）で中間報告を行った。また，並行してマスコンクリートの温度ひび割れ解析も行った。実験結果および解析結果の整理・分析を進め，検討項目ごとに報告書をとりまとめるとともに,「土木構造物における暑中コンクリート工事の対策検討ガイドライン」の作成を行った。平成 30 年 6 月 27 日に報告会（場所：朝日生命ホール）を開催し，さらに，成果の一部を JCI2018 神戸大会や平成 30 年度土木学会全国大会で発表する予定である。

2) 銅スラグ細骨材の土木用コンクリートへの適用に関する研究専門委員会
（H27 年度公募）

委 員 長：鶴田　浩章（関西大学環境都市工学部都市システム工学科）
活動期間：平成28～30年度の3年間（平成30年度は延長期間）
委 員 数：19名
委 員 会：第４回　平成29年12月11日　13名出席
　　第５回　平成30年3月27日　13名出席
打 合 せ：第３回　平成29年5月24日　5名出席
　　第４回　平成29年10月23日　3名出席
実　　験：第１回　平成29年6月13日　8名出席
　　第２回　平成29年6月21日　10名出席
活動内容：　同時期に銅スラグ細骨材に関する検討を行っている大阪兵庫生コンクリート工業組合や銅スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用について検討している日本建築学会近畿支部材料・施工部会、日本建築学会の委員会と連携して、実験実施や情報・データの共有を行い、近畿地区において銅スラグ細骨材の適用を増やしていくことを目指して活動を行っている。29 年度は、生コン工場での試験練り等の実験を 2 回実施し、配合とフレッシュ性状の関係、供試体作製などを行った。また、作製した供試体については、強度試験や長さ変化試験などを行い、結果について委員会内で議論した。それらの成果については、土木学会平成 30 年度全国大会年次学術講演会で発表予定である。

(7) 収支決算

1) 貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在　　公益社団法人日本コンクリート工学会　近畿支部

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
資産		負債	
Ⅰ 流動資産		Ⅰ 流動負債	
1．現金		1．預り金	
2．普通預金	1,606,892	2．未払金	
3．当座預金			
4．定期預金			
5．未収金		資本	
6．本部預け金	1,000,000	Ⅰ 出資金	
		Ⅱ 剰余金	
		1．前期繰越損益	3,326,758
		2．当期損益	−719,866
計	2,606,892	計	2,606,892

三菱東京ＵＦＪ銀行新大阪駅前店

2) 平成 29 年度 一般正味財産増減計算書

（単位：円）

平成２９年度一般正味財産増減計算書				
平成29年4月1日から平成30年3月31日				
	科　　目	当年度	前年度	増減
1.	経常収益			
（1）	本部交付金	1,879,840	1,887,600	-7,760
（2）	総会懇親会費	168,000	136,000	32,000
（3）	雑収益			
	①預金利息	29	67	-38
	②見学会参加費収入			0
	小計	29	67	-38
	経常収益合計(A)	2,047,869	2,023,667	24,202
2.	経常費用			
（1）	事業費			
1）	研究委員会活動費	301,187	3,107,640	-2,806,453
2）	支部活性化事業費（３委員会）	411,061	367,231	43,830
3）	関係団体共催費	232,690	209,761	22,929
4）	総会・特別講演会費	482,602	459,576	23,026
5）	その他費用	0	0	0
	事業費合計(a)	1,427,540	4,144,208	-2,716,668
（2）	管理費			
1）	事務委託費（人件費含む）	907,200	648,000	259,200
2）	会議費（執行委員会）	184,370	184,338	32
3）	事務費			
	①通信費	83,046	80,447	2,599
	②旅費交通費	6,500	1,000	5,500
	③事務所費	129,600	129,600	0
	④会議費	0	0	0
	⑤消耗品費	20,299	32,658	-12,359
	⑥手数料	9,180	13,932	-4,752
	⑦その他雑費	0	0	0
	小計	248,625	257,637	-9,012
	管理費合計(b)	1,340,195	1,089,975	250,220
	経常費用合計(B=a+b)	2,767,735	5,234,183	-2,466,448
	当期正味財産増減額(C=A-B)	-719,866	-3,210,516	2,490,650
	正味財産期首残高(D)	3,326,758	6,537,274	-3,210,516
	正味財産期末残高(C+D)	2,606,892	3,326,758	-719,866

3) 監査報告書

平成 30 年 4 月 26 日

公益社団法人日本コンクリート工学
会長　丸 山 久 一　殿

内 部 監 査 報 告 書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における会計および業務の監査を行い、適切に執行されていることを認めます。

以上

公益社団法人日本コンクリート工学 近畿支部

検　査　役　河野 元隆 (河野)

2. 平成 30 年度 事業計画および収支予算について

事　業　計　画

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

平成 30 年度もさらなる支部活性化に向けて各委員会（総務、広報行事、調査研究）が連携をとりながら、継続的な活動を積極的に推進することとする。

(1) 執行委員会・委員会等

適宜実施

(2) 支部総会

開 催 日：平成 30 年 5 月 15 日（火）

場　　所：大阪科学技術センター 8F 小ホール

(3) 講演会およびセミナー

1) 特別講演会

開 催 日：平成 30 年 5 月 15 日（火）

場　　所：大阪科学技術センター　8F 小ホール

講演題目：「JCI ・イメージアップ広報戦略検討委員会の活動報告」

「イメージアップ広報のための課題検討と対応戦略作り」

「コンクリートイノベーション戦略作り」

講　　師：米澤敏男（グローバル・マテリアルリサーチ（株））

「製造システムのイノベーション戦略作り」

講　　師：岡本享久（立命館大学）

2) 「暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究」報告会

開 催 日：平成 30 年 6 月 27 日（水）

場　　所：朝日生命ホール

3) セメント・コンクリート関西発表会 2018 （共催：コンクリート研究会）

開 催 日：平成 30 年 10 月 23 日（火）

場　　所：大阪科学技術センター

(4) 見学会

1) 親子見学会（一般市民対象）

開 催 日：平成 30 年 8 月頃

場　　所：LNG 製造所（大阪ガス泉北製造所第二工場（高石市高砂 3-1））

2) 現場見学会（会員対象）

開 催 日：平成 30 年 10～11 月頃

場　　所：未定

(5) 研究専門委員会等

銅スラグ細骨材の土木用コンクリートへの適用に関する研究専門委員会

（H27 年度公募）

委 員 長：鶴田 浩章（関西大学環境都市工学部都市システム工学科）

活動年度：平成 28～30 年度

委 員 数：19 名

活動計画：　大阪兵庫生コンクリート工業組合や銅スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用について検討している日本建築学会近畿支部材料・施工部会、日本建築学会の委員会との連携を考慮するとともに、29 年度の検討結果を踏まえて追加の試験練り、フレッシュコンクリート・硬化コンクリートの試験、さらには耐久性関係の試験を行って、成果を取りまとめていく予定である。

(6) 表彰事業

公募により支部奨励賞 3 件程度を選考のうえ、表彰事業を実施する。

(7) 収支予算

（単位：円）

平成３０年度収支予算（案）					
平成30年4月1日から平成31年3月31日					
	科　　目	H30年度予算	前年度予算	増減	備考
1.	経常収益				
（1）	本部交付金	1,800,000	1,800,000	0	
（2）	総会懇親会費	160,000	160,000	0	H29実績より
（3）	雑収益				
	①預金利息	0	2,000	-2,000	
	小計	0	2,000	-2,000	
	経常収益合計(A)	1,960,000	1,962,000	-2,000	
2.	経常費用				
（1）	事業費				
1）	研究委員会活動費	650,000	1,000,000	-350,000	1研究委員会
2）	支部活性化事業費	720,000	720,000	0	
3）	関係団体共催費	250,000	250,000	0	ｺﾝｸﾘｰﾄ研究会
4）	総会・特別講演会費	450,000	450,000	0	
5）	その他費用	0	0	0	
	事業費合計(a)	2,070,000	2,420,000	-350,000	
（2）	管理費				
1）	事務委託費（人件費含む）	778,000	650,000	128,000	
2）	会議費（執行委員会費用）	200,000	150,000	50,000	H29実績より
3）	事務費				
	①通信費	80,000	80,000	0	
	②旅費交通費	15,000	15,000	0	
	③事務所費	130,000	130,000	0	
	④会議費	0	0	0	
	⑤消耗費	20,000	20,000	0	
	⑥手数料	15,000	15,000	0	
	⑦その他雑費	0	0	0	
	小計	260,000	260,000	0	
	管理費合計(b)	1,238,000	1,060,000	178,000	
	経常費用合計(B=a+b)	3,308,000	3,480,000	-172,000	
	当期正味財産増減額(C=A-B)	-1,348,000	-1,518,000	170,000	
	正味財産期首残高(D)	2,606,892	3,326,758	-719,866	
	正味財産期末残高(C+D)	1,258,892	1,808,758	-549,866	

3. 支部執行部の体制について

一昨年新たに制定された支部規程において、支部執行部の任期は 2 年で、支部幹事及び支部執行委員は、原則として毎年約半数が交替するよう規定された。さらに、これに伴って支部規程附則において、平成 29 年もしくは平成 30 年に選任する支部幹事及び支部執行委員は、1 年を任期とすることができるとの措置がとられた。

これより、近畿支部における昨年の改選においては、毎年約半数の交替に移行するための措置として任期 1 年の委員と任期 2 年の委員に区分した。今回改選の対象者（任期が H30.5 末までの執行委員）20 名はいずれも任期 1 年とした者であることから、今回の改選では全員を再任とした。

役職		氏名	所属	任期 H30.5末	任期 H31.5末	再任	継続	再任者の任期
支部執行部	支部長	森川 英典	神戸大学		○		○	
	副支部長	鎌田 敏郎	大阪大学		○		○	
	支部幹事	井上 晋	大阪工業大学	○		○		H32.5末
		岩清水 隆	㈱竹中工務店		○		○	
		大谷 恭弘	神戸大学	○		○		H32.5末
		鶴田 浩章	関西大学		○		○	
		服部 篤史	京都大学	○		○		H32.5末
	支部執行委員	今村 りえ	中央復建コンサルタンツ㈱	○		○		H32.5末
		岡田 浩樹	大成建設㈱		○		○	
		奥立 稔	㈱大林組	○		○		H32.5末
		川崎 佑磨	立命館大学		○		○	
		川瀬 哲生	太平洋セメント㈱		○		○	
		久保田麻里子	㈱奥村組	○		○		H32.5末
		熊野 知司	摂南大学	○		○		H32.5末
		栗延 正成	阪南産業㈱		○		○	
		小山 宣幸	宇部三菱セメント㈱		○		○	
		佐伯 奈都美	ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱	○		○		H32.5末
		笹倉 克浩	神戸市		○		○	
		髙見 新一	大阪産業大学	○		○		H32.5末
		高森 太郎	清水建設㈱	○		○		H32.5末
		武田 宇浦	明石工業高等専門学校	○		○		H32.5末
		竹野 毅	西日本高速道路㈱		○		○	
		田邉 太一	大手前大学		○		○	
		谷 昌典	京都大学		○		○	
		辻村 隆	㈱バウエンジニアリング	○		○		H32.5末
		富山 政義	京都生コンクリート工業組合		○		○	
		長岡 誠一	㈱中研コンサルタント	○		○		H32.5末
		永山 勝	(一財)日本建築総合試験所	○		○		H32.5末
		西崎 丈能	大阪ガス㈱	○		○		H32.5末
		野村 博史	住友大阪セメント㈱		○		○	
		橋野 哲郎	㈱ピーエス三菱		○		○	
		東山 浩士	近畿大学		○		○	
		福本 育央	鹿島建設㈱	○		○		H32.5末
		藤原 規雄	㈱国際建設技術研究所		○		○	
		前田 朗	大阪兵庫生コンクリート工業組合		○		○	
		松川 欣司	BASFジャパン㈱		○		○	
		松本 茂	(一財)阪神高速道路技術センター	○		○		H32.5末
		村田 一郎	㈱レールテック	○		○		H32.5末
		村田 隆男	㈱フローリック		○		○	
		室田 敬	三井住友建設㈱	○		○		H32.5末
		元濱 浩人	近畿日本鉄道㈱		○		○	
		山﨑 順二	㈱淺沼組	○		○		H32.5末
	合計			20名	22名	20名	22名	

【参考:支部付き】

顧問		田中 仁史						
		西山 峰広	京都大学					
		松田 好史	西日本旅客鉄道㈱					
		宮川 豊章	京都大学					
支部出納管理者		伊藤 勝人	(一社)プレストレストコンクリート建設業協会					

【参考:本部付き】

本部	支部担当理事	岸本 一蔵	近畿大学		○		○	
	検査役	河野 広隆	京都大学		○		○	

4. 平成 29 年度表彰について

総務委員会で「近畿支部奨励賞」の応募スケジュール等を検討のうえ、コンクリート工学誌に会告を掲載して募集を行い、平成 29 年 12 月 20 日（水）に締め切ったところ、3 件の応募があった。その後、調査研究委員会において、表彰内規および表彰細則に則り審査を行い、応募資格および審査基準（独創性、萌芽性及び将来性）に対する評価点について審議を行った。その結果として、受賞候補の選考経過ならびに決定理由が支部執行委員会に報告され、3 件の応募者を受賞者とすることが決定した。

受賞者は以下の 3 名である（受付順）。

・中条　貴大　氏（株式会社竹中工務店）
「Experimental and analytical investigations of seismic pounding of adjacent 14-story reinforced concrete buildings damaged in 1985 Mexico Earthquake」
Advanced Concrete Technology、Vol.14、pp.753-769、2016

・王　子哲　氏（立命館大学大学院理工学研究科）
「RI 計器によるポーラスコンクリートの品質評価手法の提案に関する研究」
コンクリート工学年次論文集、Vol.39、No.1、pp.1471-1476、2017

・辻岡　章雅　氏（清水建設株式会社）
「光学的表面弾性波可視化技術を用いた鉄筋コンクリートの腐食ひび割れおよび剥離検査」
コンクリート工学年次論文集 Vol.39、No.1、pp.1801-1806、2017

5. 会員数の推移について

年度	個人会員			団体会員						備考
				第１種	第２種					
	正	学生	合　計		１級	２級	３級	４級	合　計	
H13			996						41	近畿支部の記録
H14			994						51	
H15			992						36	
H16										
H17										
H18										
H19										
H20										
H21										
H22			895						36	
H23	789	22	811	5	0	0	4	27	36	本部照会
H24	739	38	777	5	0	0	3	30	38	
H25	710	35	745	5	0	0	3	32	40	
H26	686	51	737	4	0	0	3	35	42	
H27	676	47	723	4	0	0	3	36	43	
H28	711	26	737	5	0	0	3	36	44	
H29	723	38	761	5	0	0	3	36	44	

※ H23~H29 年度は、各年度末現在の会員数

6. 本部からの報告について

主に支部に関係する事項のみ抜粋して、以下に記載する。

(1)　平成 29 年 6 月 21 日（水）

6 月定例理事会

・同日開催の第 50 回定時社員総会の代議員出席予定者数（出席 24 名、委任状 52 名）の確認と代理人の選定。同総会の進行予定と役割分担の確認

・事務局人事（事務局長）

・委員の追加：コンクリート圧送技術調査委員会 1 名、Advanced Concrete Technology 編者委員会 1 名

(2)　平成 29 年 7 月 11 日（月）

7 月定例理事会

・平成 28 年度決算に係る公益認定基準（財務基準）の適合状況（収支相償、公益目的事業費比率および遊休財産額保有制限）の 3 基準のいずれにも適合

・コンクリート診断士試験受験申込者数　6,372 名（対前年 482 名減）

・会員数　7,121 名（対前年 9 名増、正会員 72 名増、学生会員 68 名減、団体会員 5 増）

(3)　平成 29 年 8 月 30 日（水）

8 月定例理事会

・コンクリート診断士合格者数　738 名（合格率 15.0%）

・企画調整会議（仮）発足の提案

(4)　平成 29 年 10 月 27 日（金）

10 月定例理事会

・平成 29 年 4 月～9 月会計報告 約 34 百万円の赤字でスタート、年次大会の収支が予定より悪化のため各事業の執行状況を注視する

・コンクリート技師研修会受講者数　9,330 名（対前年 20 名減）

・助成金事業（公募、審査、交付者決定、交付等）のスケジュール決定

(5)　平成 29 年 12 月 26 日（火）

12 月定例理事会

・近畿支部執行委員の辞任，選任の報告

・年次大会 2017（仙台）の収支報告

・コンクリート技士・主任技士合格者数　技士:2,584 名（合格率 28.5%）、主任技士 438 名（合格率 13.0%）　男女比率 技士 4.57%、主任技士 13.0%

・調達規程の制定

決裁権 取引額 20 万以下：調達者、50 万未満：支部長（50 万以上は専務理事）

(6)　平成 30 年 2 月 22 日（木）

2 月定例理事会

・平成 29・30 年度役員候補者の承認

理事候補者 15 名、監事候補者 1 名

・学会賞受賞候補者の承認

論文賞、技術賞、作品賞、功労賞の承認.

・年次大会（仙台）還元金企画

利用期間は原則 3 年間、東日本大震災発生後 10 年の企画のため 4 年間を認める。

(7)　平成 30 年 3 月 23 日（金）

3 月定例理事会

・平成 30 年度事業計画

6,400 万円の赤字予算でスタート（収入規模約 8 億円）

・共催、協賛及び後援に関する規程（案）

決裁権限は支部長、理事会への報告は支部担当理事

7. 年次大会の概要について

パンフレット別配布